



2026年1月27日、「みやぎSDGs塾」=第5ターム前期のプログラムとして泉・富谷方面への視察バスツアーが実施され、食に関連する社会課題を軸に学びを深めました。

### 普段の買い物を見直す。食糧支援の現状を知る。

この日のツアーで参加者はみやぎ生協白石台店、ふうどぼんく東北AGAIN、国分東北(株)仙台総合センターを訪れ、食を通じた地域貢献などについて考えました。

#### 買い物にSDGsの視点を

みやぎ生協白石台店では、職員の金田志保さん(みやぎSDGs塾)第5タームメンバー)が、生産者と消費者の交流を重視し産地を応援するみやぎ生協の農・水産品ブランド「めぐみ野」や、東北地方のおいしいものを全国に届けて東北の生産者を支援する加工食品ブランド「古今東北」などについて説明しました。



みやぎ生協白石台店で、自分や他の参加者が選んだ商品について意見を交わし合うメンバー

#### 食糧支援をめぐる連携

後、参加者らは店舗で買い物体験。商品の購入が地域社会や地球環境に及ぼす影響を考えながらじっくり選びました。

次に一行は、富谷市を拠点に活動するNPO法人ふうどぼんく東北AGAINを訪ねました。フードバンクは、企業や家庭で使わない食品を集めて生活困窮者などに無償で提供する取り組みで、貧困・飢餓問題や食品ロス問題の解消を目指すもの。AGAINはフードバンク事業を中心に、困窮者の生活相談、子どもの遊び場づくりなどの実践を重ねてきました。宮



ふうどぼんく東北AGAINに寄せられた食品についてスタッフ(左端)の説明を聞くメンバー

### 研修内容をもとにディスカッション

参加者らはツアーの最後に5人ほどのグループに分かれ、社会課題の解決につながる新たなプロジェクトを考案するディスカッションを行いました。



それぞれの所属企業の特徴をどう活用できるか考えながら、新たなプロジェクトを考案

#### グループワークでアイデア探し 課題解決につながるプロジェクトを考えよう

各グループでは参加者一人一人が研修で得た知見をもとに、各々の所属先の強みなどを整理しながらアイデアを出し合い、新たなプロジェクト案を一枚のシートにまとめた。ツアーの行程を経て参加者どうしの相



グループごとにまとめたプロジェクト案を発表。和やかな雰囲気の中、具体的な提案が続きました



### 「食」を通じて思いをつなぐ視察バスツアー開催

#### 物流の現場から考える地域貢献とSDGs

一行はさらに、食品卸売業などを営む国分東北の物流拠点である国分東北(株)仙台総合センターを訪れました。

センターの一角では国分東北の佐藤理紗さん(みやぎSDGs塾)第5タームメンバー)が同社の食品卸売業の内容やセンターの機能などについて解説。「食品卸の存在によってメーカーと小売店の間の物流コストが大幅に削減され、経済活動の効率化、環境負荷の軽減につながる」などSDGsの視点も踏まえて話しました。また佐藤さんは、子どもの食の支援などに取り組み他社との連携事業について、「食品卸としての機能を生かし、未利用食品の供給・倉庫機能の提供などを通じてサポートしている」と紹介しました。



国分東北(株)仙台総合センターの倉庫内で記念撮影

国分東北は右のふうどぼんく東北AGAINの活動にも賛同し、業務の過程で生じた未利用食品などを積極的に提供しています。

#### 参加者の声

##### 意識が変わるきっかけに

宮城県民共済 西條諒佑さん

商品が環境に及ぼす影響や商品の生産地などを考えて買い物をしたのは初めてで、刺激になりました。自分にとって、今後の生活や業務に対する意識が変わるきっかけになったと思います。



国分東北の食品卸売業についてSDGsの視点を交えて解説した佐藤理紗さん

#### SDGsとうほくコラム

### SDGs採択から10年、いま大学生が動き出している

宮城大学食産業学群 教授 作田竜一さん



2015年、国連でSDGsが採択されてから、10年が過ぎた。当時、17のゴールとカラフルなアイコンに戸惑った大人たちとは対照的に、今大学に入學してくる学生たちはまったく違う感覚を持っている。

とフードロス、暑い夏と気候変動…。地域の日常に潜む問題に中高生の感性でアンテナを立て、自分なりの問いを抱え、自分なりの答えを。そして共通しているのが「自分で動きたい」という強い意欲だ。SDGsを「知識」として持つのではなく、「自分事」として取り組むことを当たり前と感じている。

彼らが繰り返し向き合ってきた課題は実に身近だ。超高齢化が進む地域の活性化、農業

問われるのは受け入れられる側だ。彼らの「やりたい」に答えられる場や仕組みを、大学も地域も企業も十分に用意できているか。うかうかしてはいられない。社会に先に居る大人として、SDGsネイティブたちのチャレンジを全力で後押ししたい。彼らとともに切り拓く時代なのだ。



賛同企業 募集中!!

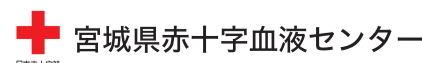


申し込み・問い合わせ  
河北新報社営業局  
TEL / 022-211-1318  
MAIL / koukoku@po.kahoku.co.jp

#### 第5ターム参加者(敬称略)

【荒町商店街振興組合】庄子康一【YES工房】大森文広【SKホールディングス】【エントワデザイン】佐藤寛和【オフィス塩蔵】加藤貴伸【環境再生保全機構】【キューアンドエー】柴田知和、成澤勝将【国分東北】佐藤理紗【大日本印刷】阿部巧、小泉一也、矢島迅人、大沼真洋、花村祐太、野口通南【タイハク】山田妃那、及川達也【日建リース工業】加島重信【日本旅行東北】櫻井寛也、渡辺隆太郎【宮城県赤十字血液センター】庄子いくみ【宮城県民共済生活協同組合】田中俊貴、西條諒佑、久松紗和、石倉新太郎、石田涼香、加藤明日菜【みやぎ生活協同組合】金田志保【ミライトス】鈴木圭介【山一地所】【WACO CREATE】岩村和哉、岩村優香【仙台高等学校】渡部真路【尚綱学院大学】内田和希【オブザーバー】紅邑晶子、高浦康有

#### 賛同企業・団体・個人



特別協力 SDGsとうほく 協力 宮城県 JICA東北 荒町商店街振興組合 YES工房 オフィス塩蔵 WACO CREATE 仙台高等学校 尚綱学院大学SDGsセンター